



県内主要産業の動向

2017年4・5月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	17年3月	17年4月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	消費の低迷を背景に受注は総じて低調。主力の百貨店向け、ホテル・レストラン向けとも動きが鈍い。足下では、外食業者からスプーンの大量受注の引き合いがあり、今後の展開に期待。そうした中、産地の担い手育成を目的として、新たな技能研修会を開催する動きもみられる。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は、前年並みで推移。外注先減少により人手不足の状況。人件費等がかさんで収益環境は厳しい。そうした中でも、輸入品との差別化やブランド力のアップを目的とした「メイド・イン・ツバメ」の認証製品が一段と増加。産地の認知度向上に寄与している。
作業工具	◐	◐	→	国内はホームセンター向けが弱含みで建築関連工具もやや低調。そうした中、自動車工場向け工具は好調な動きであり、取扱製品によりばらつきがみられる。一方、輸出は東南アジアを中心に好調を維持。国内市場の成熟から海外市場へ活路を見出そうとする動きも活発化してきた。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は回復基調が続く。半導体関連では、市場在庫の逼迫感が強まっており、半導体や半導体素材の受注が増加。電子部品関連では、半導体製造装置向けが引き続き堅調。携帯端末関連でも高水準な受注が続く。足下の受注増を受けて人手不足が拡大しており、人材の確保が課題。
鋳物	◐	◐	↗	受注は上向き傾向。中国を中心とした海外需要を背景にIT関連・自動車・産業機械向けが堅調。一方、工作機械・船舶・建設機械向けはやや弱含みで品目により二極化している。当面は、引き続き外需の増加が期待できるが、受注増に対応した労働力の確保が課題である。
金型	◐	◐	→	受注は前年水準まで回復。自動車関連は全般的に堅調だが、北米向けにやや一服感がある。建設機械は国内設備投資需要、半導体は海外IT投資需要を背景にともに堅調な動き。受注は改善基調ながらも、原材料価格は高止まりしており、納品先への価格交渉が課題となっている。
一般機械	○	○	→	スマートフォン関連は緩やかな伸長が続く。建設・プラント関連は東南アジア向けで受注が堅調。自動車関連はインド市場向けが増加傾向。総体的に外需は、中国を中心とした工場の省力化投資により強含み。今後業界として、IoTに対応する高性能工作機の開発強化と慢性的な人手不足に対応した供給体制の整備が必須要件。



業種	景況			コメント
	17年3月	17年4月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地では、受注は前年並の水準にとどまる。4月に全国から卸商社・小売店を招いてイベントを開催したが、盛り上がりには欠けた。そうした中、着物の端材を活用した小物類を販売し、売上増強を図る動きもある。一方、五稜産地では、生産額・数量とも前年並にとどまり、総じて厳しい業況が続く。
合織織物	●	●	→	秋冬物の生産最終期にあたるが、百貨店からの需要が弱く追加受注がない状況。収支面では、原材料の綿糸価格が上昇し、収益圧迫の要因となっている。そうした中、見附産地では、地元特産物であるマンガン緋(かすり)製クールビズシャツを今年も6月から販売し、産地のPRに努める。
ニット	●	●	→	春夏物の生産最終期にあたるが、在庫を抱えたアパレルの追加発注は乏しく、生産は低調。足下、秋物受注期入りしたが立ち上がりは鈍い。そうした中、独自の販売戦略として、直営のアウトレットショップ、ネットショップの開店や、都市部のセレクトショップへの納品で売上確保を図る業者もある。
木工家具	●	●	→	業況は総じて低調。業務用では商業施設や店舗関連を中心に相応の受注がみられたものの長続きせず。チェーン店からの継続受注が見込まれる業者もあるが、一部にとどまる。家庭用では受注確保に苦慮。大型家具の需要が弱いため、家具のリフォームに注力し需要の掘り起こしを図る業者も。
清酒	●	●	→	4月の出荷量は、県外向けが伸び悩んだことにより全体では前年を下回った。酒類別では、飲食店向けを中心に普通酒の出荷が落ち込んでいる。そうした中、全国新酒鑑評会では県内から14点が金賞を受賞した。県内清酒の品質の高さは示されており、今後の消費拡大に期待。
米菓	◐	◐	↗	4月の売上は総じて前年並みを確保。5月は連休やポテトチップスの代替需要などから、売上は前年を上回って推移。そうした中、各メーカーとも夏の不需要期に向け、季節限定品などの開発に注力。コスト面では、特定米穀価格が上昇傾向にあり、今後の収益圧迫につながる懸念も。
建設	○	○	↘	公共工事は、持ち直し基調にあるが、前年度の補正予算関連工事が下支えしており、今年度予算の執行本格化が待たれる状況。民間工事は、大型工事は少ないものの、医療・福祉施設などに底堅い動き。住宅建設は、貸家が落ち込むなか、持家も足下でやや弱含みの動きをみせている。
大型小売店	◐	◐	→	4月は気温が上昇し、衣料品などが堅調で売上は前年並みを確保。ゴールデンウィークもまもなく。足下では、引き続き衣料品に動き。ただし、食品は消費者の節約志向の高まりなどから弱含み。そうした中、百貨店では定休日を導入したものの、客足などへの影響は限定的との声。